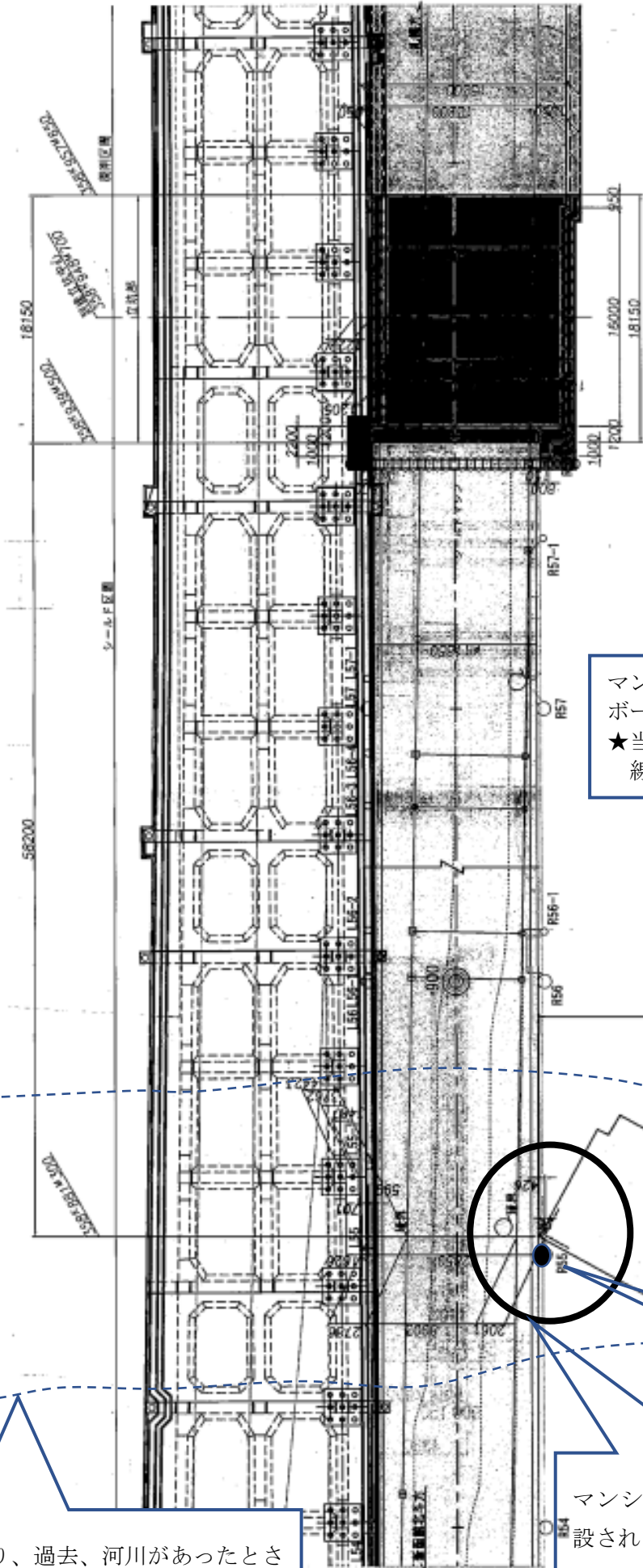


セレナール森園ステーションコンコース付近平面図 S=1/300



マンション建設時の
ボーリング箇所 (1箇所)
★当時は新幹線は高架化の前提のため、
線路側の地盤調査は行っていない。

セレナール森園
アーバンコート

ボーリング箇所 (1m 以上浮い
ている箇所)

マンションの下にトンネルが敷
設される。

古図より、過去、河川があったとさ
れる場所 (詳細な場所は未確認)

セレナール桑園ステーションコート付近断面図
(358km881m300付近) S=1/100

①トンネルルートの再検討

⇒無理であれば、建築の見地での地盤強化 または土地建物の買い上げを検討して欲しい

②高架案からトンネル案に変更に際して危険性を検討したのか

⇒マンション移転なくトンネルを建設するのかあまりにも危険

③第三者委員会によるマンションの安全性について説明

⇒JRTT の第三者委員会では建築の専門家がおらずマンションの安全性の説明なし。非常に近接しているということを考慮していない。

④真摯な態度で

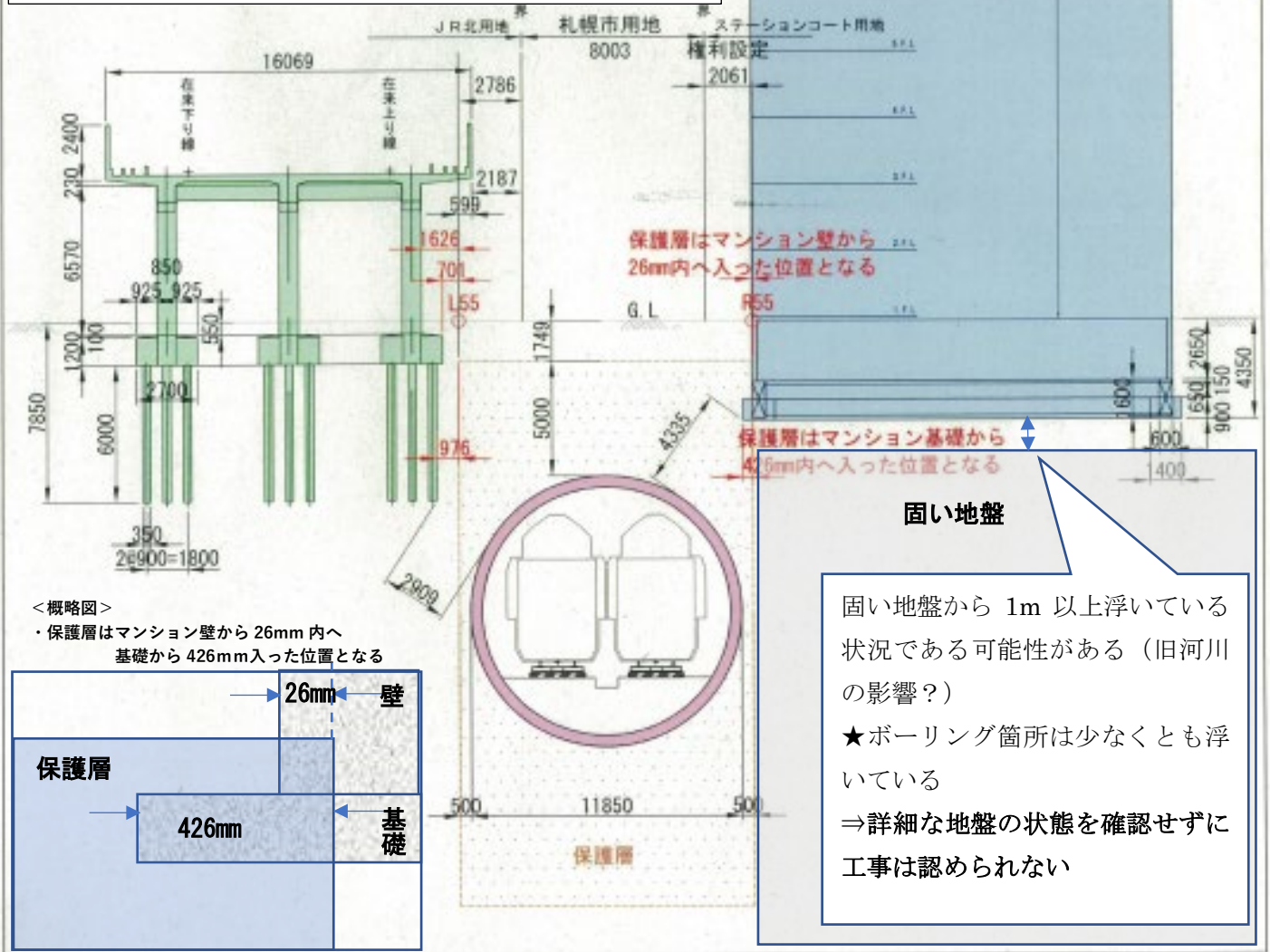
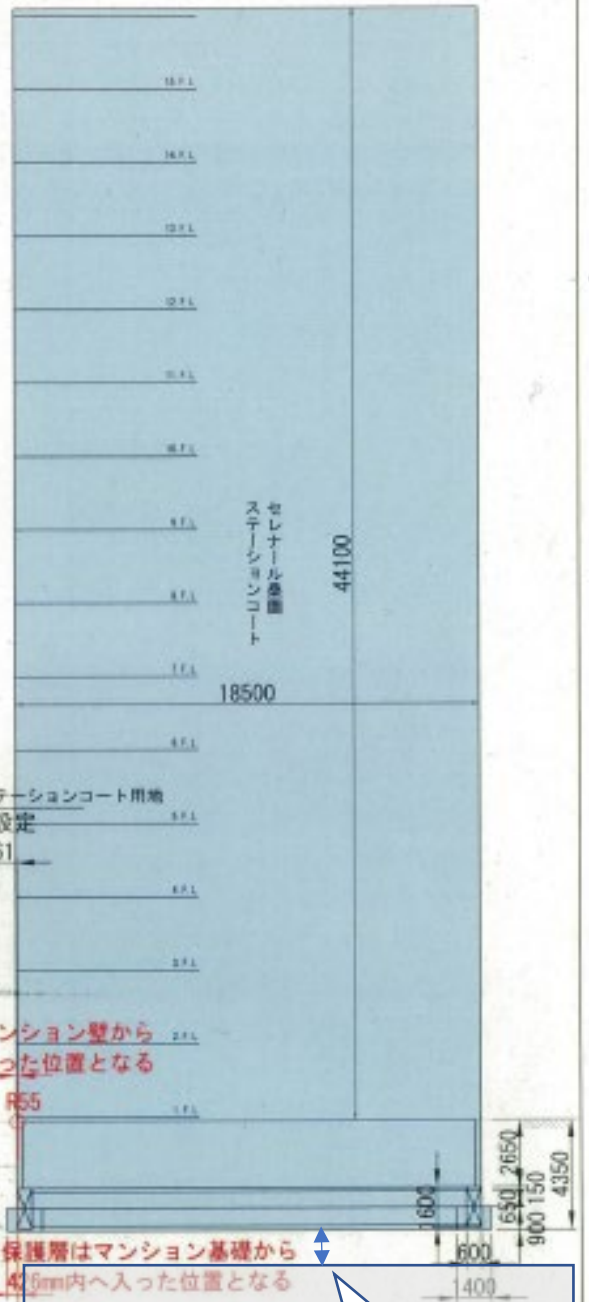
⇒JRTT が①、②、③についてゼロ回答であるため。

⑤そのまま工事を強行しないで欲しい

⇒建物への影響がない「保証」(定期的な測量など)を求めているがJRTT 側は傾いた場合の「補償」はするが『立証は住民側』ということでコスト負担を住民側に求めている。この状況は受け入れ難い。

⑥環境アセスメントのやり直し

⇒マンション下に川が流れていた事実が発覚しており、ボーリング調査でもマンション付近の地盤が弱いことが分かっている。環境アセスにはその考慮がなく、それをアリバイにし、JRTT は当 MS を「例外」として、川があったことによる影響調査を拒んでいる。



固い地盤

固い地盤から 1m 以上浮いている状況である可能性がある (旧河川の影響?)

★ボーリング箇所は少なくとも浮いている

⇒詳細な地盤の状態を確認せずに工事は認められない

